高退協ニュース

No. 208
２０１７年
９月５日
発行　高退協事務局
発知　高知城ホール高教組気付

〒780-0850
高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目1～10
連絡先　TEL 088～822～6822
郵便振替口座〇一六五〇～二～一一八九三

高退協夏季学習会　良かったね！

爽やかな　豊かな「歩み」を伝えたい

田中　正

暑い夏が続く八月二十五日、恒例の高退協「夏季学習会」が、35名の参加者で開催されました。最初の講演は、宮川敏彦さんから。社会科教育、氷室復活、土佐備長炭、障害者登山などいろいろと積極的に関わられた分野から、「地域の課題にどう取り組むか」をテーマに特に本川村のイベントは今年で27回目、東京や大阪などから毎年楽しみにして参加される人たちがいて、賑わっていること。当初おが屑を現地でチェンソーで削っていて大変だったこと。テレビで報道されて、みんなが覗きに来て氷が解けてしまったことなどのエピソードも披露されました。地域の研究は、地域の住民によく学び、歴史と文化を研究しながら未来を切り開くものだとまとめられました。

宮川さん

次に卒寿を迎えられる岡崎昭平さんから、「高知城の木に助けられて」というテーマでお話がされました。毎日高知城を歩かれておられ、木々や自然の変化に触れられているだけに五十分間、休みも取らずにお話しされ、そのお元気さにびっくりしたことでした。三浜で放送された投稿ビデオを皮切りに、映像で語り継ぎたいとご自分で作成編集されたビデオ・スライド「高知城の木に助けられて」「母校非運の歌」「新堀川のシオマネキを絶滅させないで」を放映され、戦時中や勤評の頃の自己紹介、大正デモクラシーの崩壊・城北中の悲劇、自然を守ることの大切さ・重要性を講演されました。最後に、自然を守ること、日々の記録を取ることの重要性、理科教育の中に人間の健康に関わる職業病や公害病などを授業として積極的に取り入れることが必要だと訴えられました。

岡崎さん

最後に高教組書記長の竹島昇吾さんから、オリンピックを見据えて一定のスポーツに秀でた「教員採用特別選考審査」、一部業者に業務委託する学力向上事業、江の口養護学校と寄宿舎の納得できない移転など報告されました。

今年度は、現職時代、退職後と様々な生き方や活動をされてこられた会員のお話をお聞きし、それぞれの爽やかな、豊かな「歩み」を実感し、感動しました。また来年度は、**あなたにお願いに伺います**ので、気軽にお受けください。後、暑気払いの懇親会は飛び入りもあり、24名の皆さんで近況報告もしながら、楽しく盛り上がりました。来年も明るい時間から開催します。

お知らせ（米寿祝いについて）

これまで、高退協では、米寿のお祝いを「満年齢」でお渡ししていましたが、今年度より、「数え年」でお届けするよう変更しました。「高退協ニュース207号」では、10名の（1929年生まれ）方々を報告しましたが、今回、新たに、八名の方々（1930年生まれ）が米寿を迎えられますのでご紹介いたします。

祝・米寿

竹内　治子　さま（南国市大埇）
矢野川　瀧男　さま（高知市八反町）
溝渕　政子　さま（高知市長浜）
奥坂　圭三　さま（高知市仁井田）
武内　直男　さま（高知市神田）
岡崎　清恵　さま（高知市横浜西町）
渡辺　怜子　さま（吾川郡いの町）
中村　忠男　さま（四万十市井沢）

※1930年生まれの方で、お名前のぬかりがありましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。

原水爆禁止世界大会 ―IN長崎から

別役　美佐

8月7日から9日まで、＝原水爆禁止2017年世界大会＝が長崎で開催されました。核兵器禁止条約が、採択された時でもあり、（今、行かなくては！）の思いで参加をしました。本来は、船中泊で3泊4日の予定でしたが、迷走台風5号の影響で、急遽、出発時間を繰り上げ、車中泊、陸路で長崎入りをするスケジュールとなりました。しかし、現地に到着し、開会式に参加すると気持ちは、世界大会モードへと切り替わっていました。用意された四国の席には、高知県のみです。他の3県は、遅れています。高知の平和委員会の方々の気象情報先取りの迅速な対応は、見事でした。「被爆遺構・碑めぐり」の分科会へ参加をしました。案内人の第一声は、「しおりには、『原爆落下地点』と書いています。私は、『投下地点』と言います。原爆は、自然に『落下』するものではないのです。人が、落としたのです。『投下』したのです。」案内人の重い言葉です。15人ほどが一組となり、長崎の坂、階段を上り、石畳を歩きました。そして、目的とする小高い山に位置する穴弘法寺へ到着しました。町を見下ろすことができます。湧水が有名な場所でもあり、多くの被爆者が、傷だらけの身体で、「水」を求めてこの場所で息切れたのです。人の想像力をはるかに超える事実が、この地の現実です。供養の地蔵尊の傍らに被爆地蔵尊、爆風で倒れたままの鳥居に、墓石の数々、参加者の「時」は、止まってしまいました。

最終日は、雨空の長崎の町でした。会場は、7000人の人で埋め尽くされていました。閉会式の大きな課題は、採択された条約を手元に、これからの取り組みの在り方が提案されました。①世界大会国際会議宣言が呼びかけた世界同時の「平和の波」（9月20日～26日）行動をおこす。②禁止を支持する国民的多数派をつくり世論と運動で、政府に調印・批准させることを訴える。③核兵器禁止条約についての対話と宣伝、学習を深める。そして、最後に、「ヒバクシャ国際署名」を大きく発展させる。以上の3点が満場一致の拍手で承認され、大会の幕は降りました。今年は、若者の姿が際立っていました。草の根の運動は、確かに拡がり、根付き発展していることを感じる世界大会でした。

原水爆禁止世界大会ＩＮ長崎

哀悼

植松　康勲　さん
2月2日　逝去

宮川　博文　さん
8月14日　逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。